

2008年度(2009年3月期) 通期(第4四半期)決算説明会

2009年4月30日

セイコーエプソン株式会社

© Copyright Seiko Epson Corporation 2008



■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部変更について

- 将来の事業化を目指していた、「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部を、3月に発表したデバイス事業の構造改革の方向性に沿って全社の基礎研究開発へと役割を変更
- それにともない、2009年度以降のセグメント損益の開示値を変更
- 2009年度予想の説明において、前年度を比較対象とする場合は、2008年度のセグメント損益もあわせて補正

2



- 「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部変更について。
- 将来の事業化を目指し、「その他の事業」セグメントに含めている「胎内育成事業」の一部につき、3月に発表したデバイス事業の構造改革の方向性に沿って、全社の基礎研究開発へと方針・役割を変更。
- これは、各セグメントで負担すべき性質の費用であるため、2009年度以降のセグメントの損益開示値を変更。
- 2008年度の実績は、変更前の従来どおりのセグメント開示値を表示。
- ただし、2009年度の予想を、2008年度と比較して説明する際は、2008年度のセグメントの損益数値について同様の補正を行っている。

決算ハイライト(通期)▶前期比

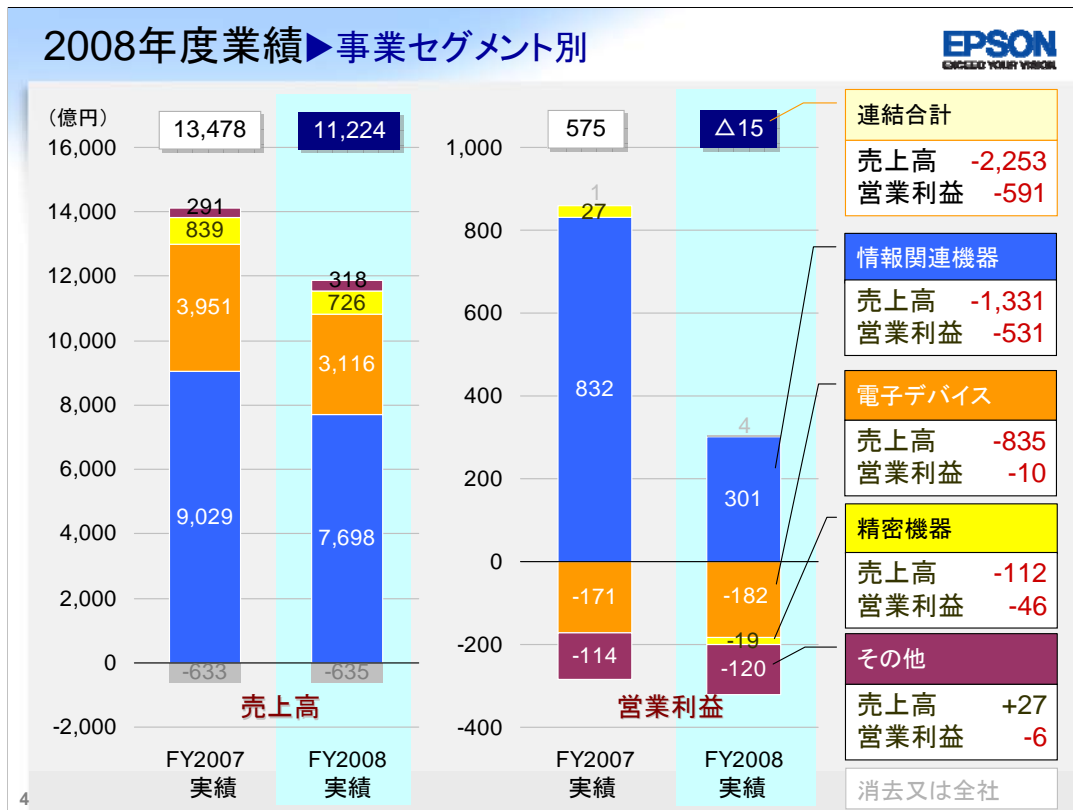


(億円)	2007年度		2008年度				増減額 増減率	
	実績	%	前回予想 (3/11)	%	実績	%	前年 同期比	3/11 予想比
売上高	13,478	-	11,380	-	11,224	-	-2,253 -16.7%	-155 -1.4%
営業利益	575	4.3%	60	0.5%	△15	-0.1%	-591 -	-75 -
経常利益	632	4.7%	130	1.1%	53	0.5%	-579 -91.6%	-76 -59.2%
税引前利益	520	3.9%	△760	-6.7%	△895	-8.0%	-1,416 -	-135 -
当期純利益	190	1.4%	△1,000	-8.8%	△1,113	-9.9%	-1,304 -	-113 -
EPS	97.24 円		△509.26 円		△566.92 円			
換 算 レ ー ト	USD	114.28 円	100.00 円		100.53 円			
	EUR	161.53 円	142.00 円		143.48 円			

3

2008年度 通期決算の概要について。

- 売上高は、前期比2, 253億円減収の1兆1, 224億円、営業利益は、前期比591億円 減益の15億円の損失、当期純利益は、1, 113億円の損失。
- 前回(3/11)予想比では、売上高は155億円、営業利益は75億円、それぞれ下回った。当期純利益は、営業利益が下回ったことに加え、減損の適用範囲や 計算基礎の見直し・精査を進めたこと、税金費用の見直しなどにより、前回予想を113億円下回った。
- 急激な景気後退や、円高による市場環境の悪化による影響が大きかったとはいえ、当社上場来、初めての営業損失となったことに加え、電子デバイスセグメントの改革の遅れから、1, 000億円を超える 純損失計上となった。
- 市場の皆様の期待に応えられなかったこと、業績修正を繰り返したことを、お詫びする。2009年度において、さらなる改善ができるように、全力をもって取り組んでいく。



➤ 2008年度業績－セグメント別の売上高について。

➤ 情報関連機器は、売上高7,698億円、営業利益301億円、電子デバイスは、売上高3,116億円、営業利益182億円の損失。

➤ 前回(3/11)予想との比較では、
 情報関連機器は、景気の一段の後退によりビジネス市場向けの製品本体、消耗品の売上高が下回ったことにより減益。
 電子デバイスは、景気後退の影響により減収となったが、
 固定費削減の継続的な取り組みの効果により、損失幅を縮小。

2009年度業績予想▶前期比

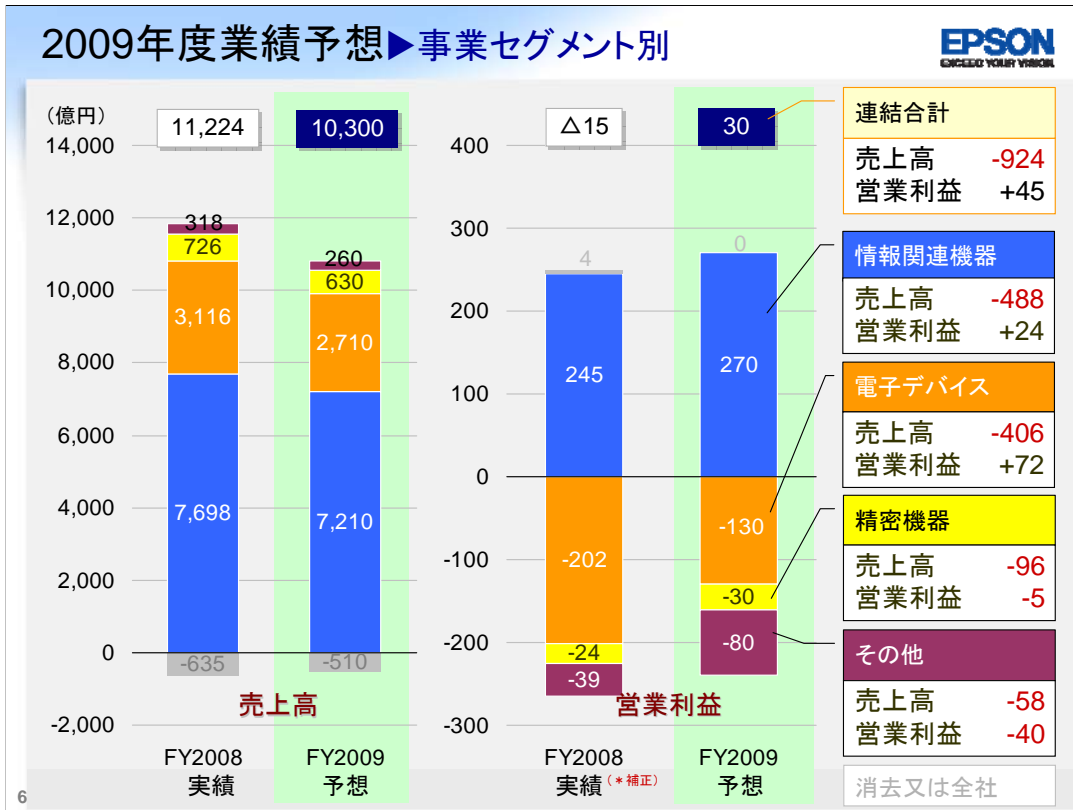


(億円)	2008年度		2009年度		増減	
	実績	売上高比	予想	売上高比	増減額	増減率
売上高	11,224	-	10,300	-	-924	-8.2%
営業利益	△15	-0.1%	30	0.3%	+45	-
経常利益	53	0.5%	0	0.0%	-53	-
税引前利益	△895	-8.0%	△20	-0.2%	+875	-
当期純利益	△1,113	-9.9%	△60	-0.6%	+1,053	-
EPS	△566.92 円		△30.56 円			
換算 レート	USD	100.53円	90.00円			
	EUR	143.48円	115.00円			

5



- 2009年度の業績予想について。
- 3月11日に発表した、中期経営計画の1年次の損益目標、経常利益ブレークイーブンから変更なし。
- 売上高は前期比924億円減収の1兆300億円、営業利益は45億円増益の30億円、当期純利益は60億円の損失を予想。
- 為替レート的前提は、USDが90円、EURが115円。



- 2009年度業績予想における、事業セグメント別の内訳について。
- 情報関連機器は、売上高7,210億円、営業利益270億円、電子デバイスは、売上高2,710億円、営業損失130億円を予想。
- 2009年度よりセグメント損益の開示値を変更したことに伴い、比較の便宜上、2008年度のセグメントの営業利益は2009年度にあわせ補正して表示。(スライド2参照)

2009年度予想のポイント



中期経営計画(2009~2011年度)初年度

引き続き景気後退による厳しい事業環境の中、事業構造改革による損失を出し切り中長期的な視点に立ち、布石となる事業基盤の再構築、全社を上げた固定費削減に取り組む

情報関連機器セグメント

景気後退の影響を受け、ビジネス向け市場が低調なことや、円高があるものの、コストダウン・固定費削減などによる事業の高効率化を進め、前年度並みの利益水準を維持

- ・インクジェットプリンター:引き続き競争力の高い製品の投入、成長市場であるエマージングや成長領域である商業・産業分野への取り組みを強化
- ・ビジネスシステム:POS関連製品、SIDMの強いプレゼンスの維持・強化、
- ・プロジェクター:普及価格帯でのシェアNO.1、高輝度エリアへの取り組み

電子デバイスセグメント

2008年度末に実施した減損の影響、および固定費削減効果により損失を縮小中期経営計画の方向に則り、各事業において構造改革を進める

- ・中・小型液晶ディスプレイ:提携協議および拠点再編・要員の配置転換に継続して取り組む
- ・半導体:強みを発揮できる分野への取り組み、社内の他事業の競争力強化にリソースを再配置
- ・水晶デバイス:センシングデバイスなど成長領域である分野の強化

7

- 2009年度予想のポイントについて。
- 2009年度は、3月11日に発表した中期経営計画の初年度。
- 現時点では、市場回復を認識できる状況には無く、2009年度も引き続き厳しい事業環境が見込まれる。そうした中、事業の構造改革による損失を出し切り、中長期的な視点に立ち、布石となる事業基盤の再構築、全社をあげた徹底的な固定費削減に取り組んでいく。
- 情報関連機器は、景気後退と円高の影響を受け、厳しい市場環境の継続が見込まれるが、引き続き競争力の高い製品の投入、徹底したコスト削減への取り組みなどにより、利益水準は前年並みを維持する見込み。特に、インクジェットプリンター事業において、成長市場であるエマージングや、成長領域である商業・産業分野への取り組みを強化し、中長期的には売上と利益を拡大・創出できる体制を整えていく。
- 電子デバイスについては、中期経営計画の方向に則り、中・小型液晶ディスプレイ事業は、ソニー株式会社との提携協議を推進すると同時に、拠点再編、要員の配置転換に継続して取り組んでいく。
半導体事業は、低パワーアナログ混載技術をコアとした製品を引き続き事業領域とするが、社内に半導体技術を持つ強みを活かし、他事業における製品の競争力強化のためにリソースの再配置を行っていく。
水晶デバイス事業は、子会社であるエプソントヨコムを100%子会社化しグループ内における連携を高め、センシングデバイスなどの成長領域を強化していく。
- 中長期的に実現する姿「強い事業の集合体」を目指し、利益成長をともなった売上高成長を実現すべく、全力を尽くし2009年度に 取り組んでいく。

1) 2008年度 決算

2) 2009年度 業績予想

8



➤ 2008年度 通期決算について。

決算ハイライト(通期)▶前期比

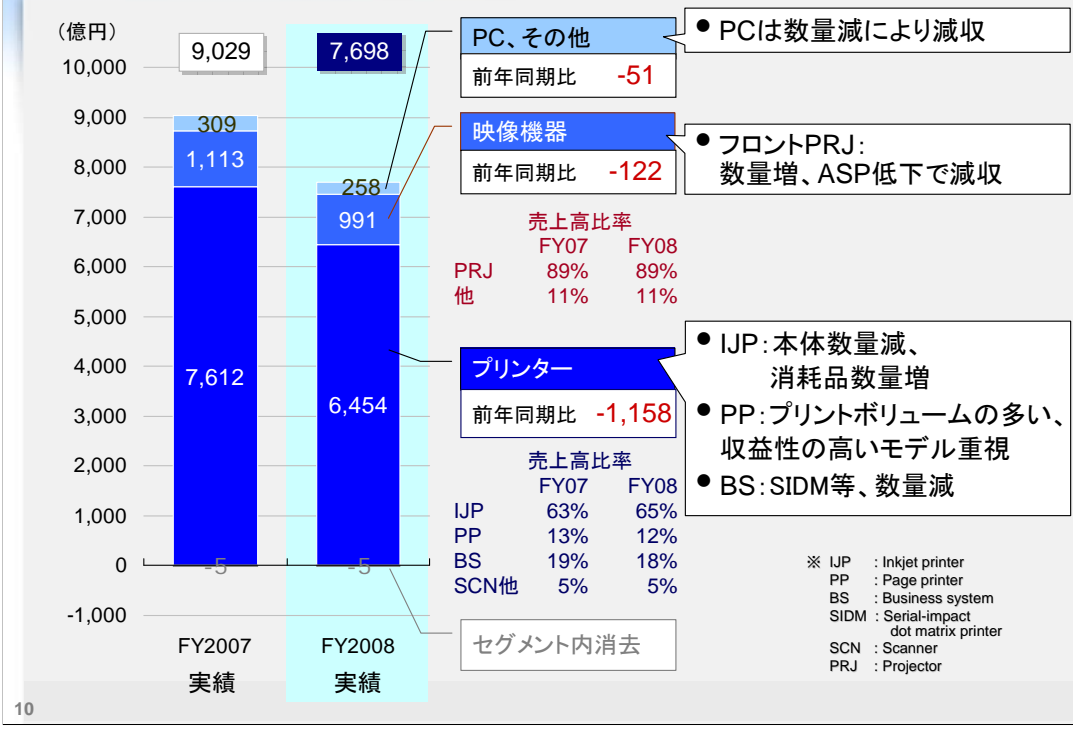


(億円)	2007年度		2008年度				増減額 増減率	
	実績	%	前回予想 (3/11)	%	実績	%	前年 同期比	3/11 予想比
売上高	13,478	-	11,380	-	11,224	-	-2,253 -16.7%	-155 -1.4%
営業利益	575	4.3%	60	0.5%	△15	-0.1%	-591 -	-75 -
経常利益	632	4.7%	130	1.1%	53	0.5%	-579 -91.6%	-76 -59.2%
税引前利益	520	3.9%	△760	-6.7%	△895	-8.0%	-1,416 -	-135 -
当期純利益	190	1.4%	△1,000	-8.8%	△1,113	-9.9%	-1,304 -	-113 -
EPS	97.24 円		△509.26 円		△566.92 円			
換算 レート	USD	114.28 円	100.00 円		100.53 円			
	EUR	161.53 円	142.00 円		143.48 円			

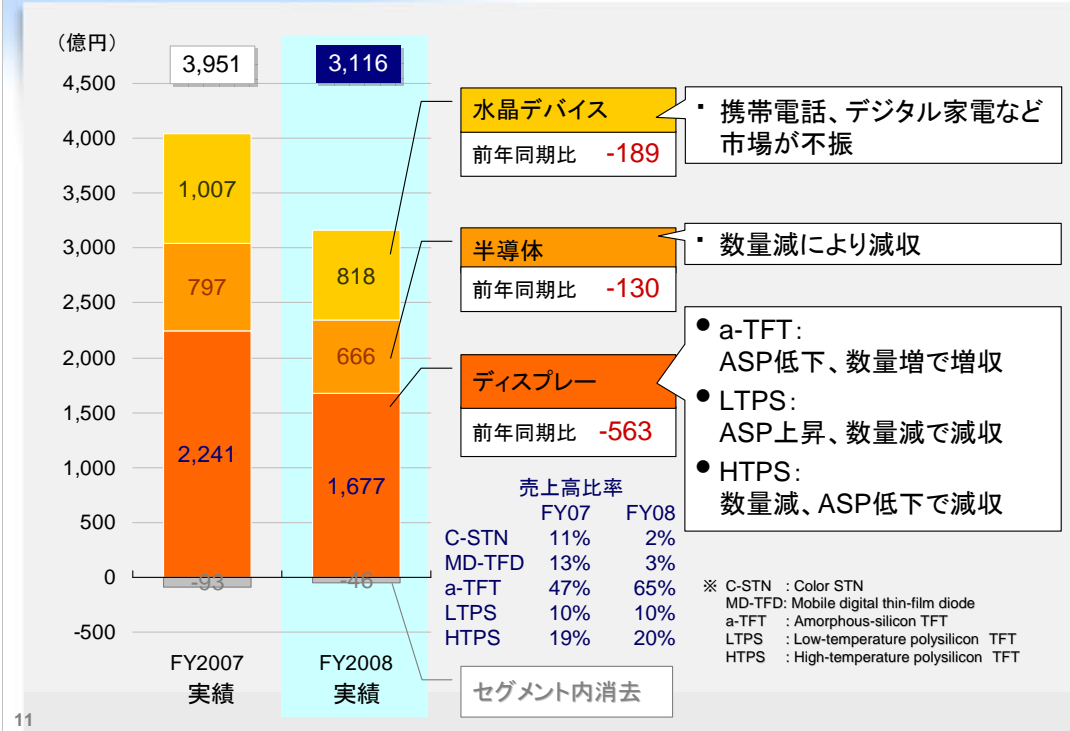
9

-
- 2008年度の実績は、
通期の売上高は前期比2,253億円減収の1兆1,224億円、
営業利益は前期比591億円減益の15億円の損失、
経常利益は、前期比579億円減益の53億円の利益、
当期純利益は、1,113億円の損失。
- 各セグメントの事業部門別の、通期の売上高の内訳は、スライド10、11参照。

売上高比較(通期)▶情報関連機器セグメント



売上高比較(通期)▶電子デバイスセグメント



貸借対照表主要項目推移

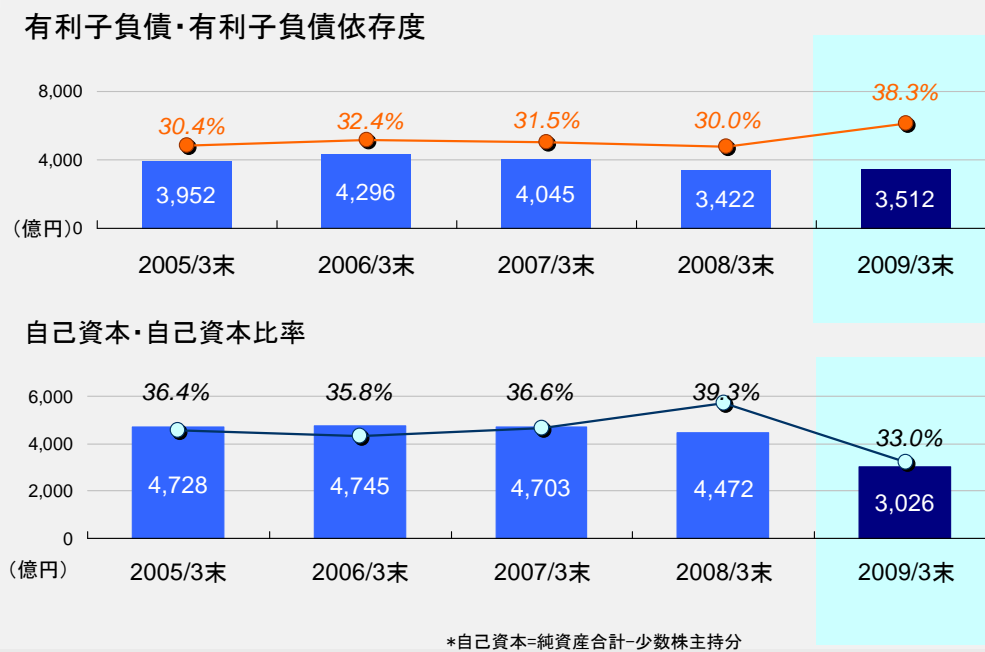


12



- 貸借対照表主要項目の推移について。
- 総資産は、設備投資の減少 および、年度末の減損の実施による有形固定資産の減少、売上高減少による売上債権の減少、現金および現金同等物の減少、繰延税金資産の減少などにより、前期末と比べ 2, 218億円減少。

貸借対照表主要項目推移



13

-
- 有利子負債は、前期末比 90億円増加し、総資産の有利子負債依存度は 38.3%。ネット有利子負債は、フリーキャッシュフローがマイナスとなったことなどにより前期比422億円増加し、668億円。
- 自己資本は 1,445億円減少、自己資本比率は 33.0%。

決算ハイライト(第4四半期決算)▶前年同期比

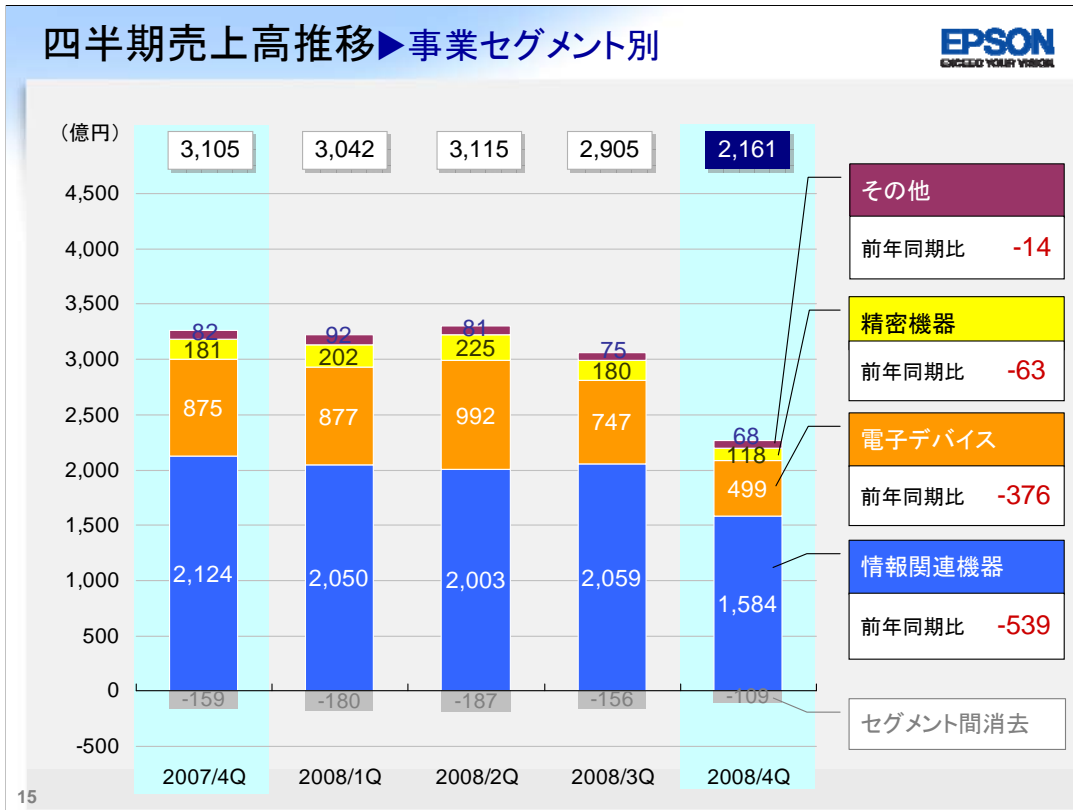


(億円)	2007年度		2008年度		増減	
	4Q実績	%	4Q実績	%	増減額	増減率
売上高	3,105	-	2,161	-	-944	-30.4%
営業利益	18	0.6%	△342	-15.9%	-361	-
経常利益	29	1.0%	△322	-14.9%	-352	-
税引前利益	△27	-0.9%	△1,093	-50.6%	-1,065	-
四半期純利益	△31	-1.0%	△1,232	-57.0%	-1,200	-
換算 レート	USD	105.29円	93.61円			
	EUR	157.64円	121.81円			

14

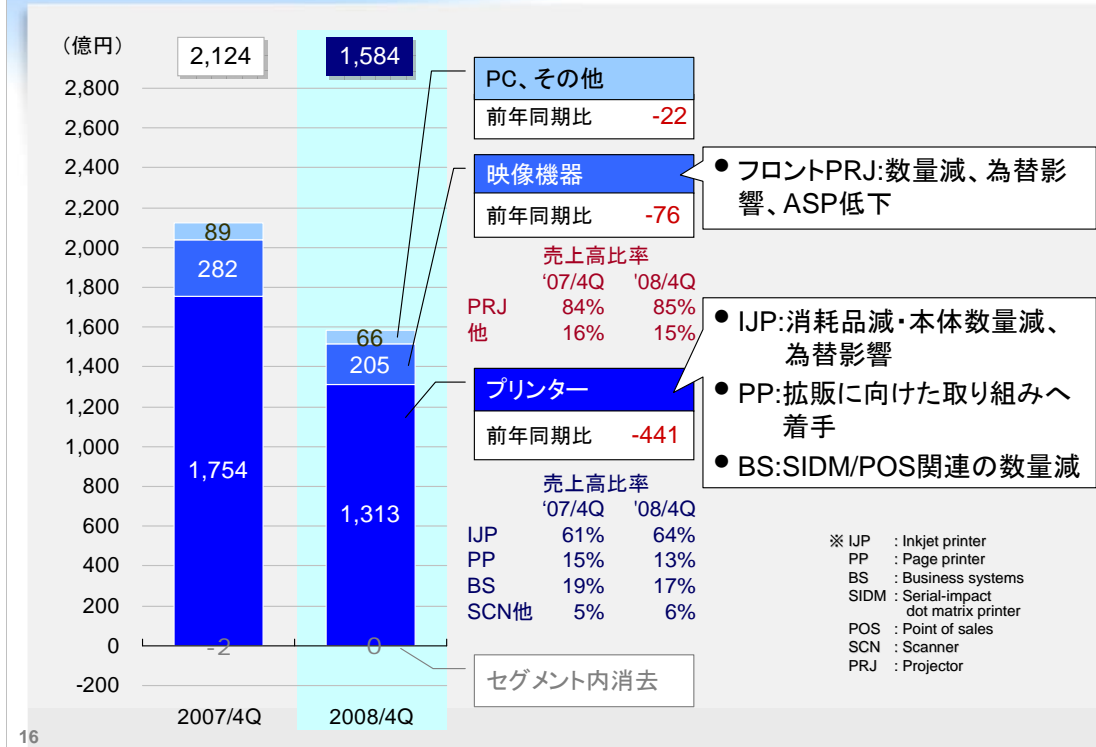


- 2008年度 第4四半期の実績について。
- 売上高は、前年同期比 30.4%減収の2,161億円。
利益面では、342億円の営業損失、322億円の経常損失、四半期純利益は、おもに事業構造改善費用、減損損失を計上したことにより、1,232億円の損失。



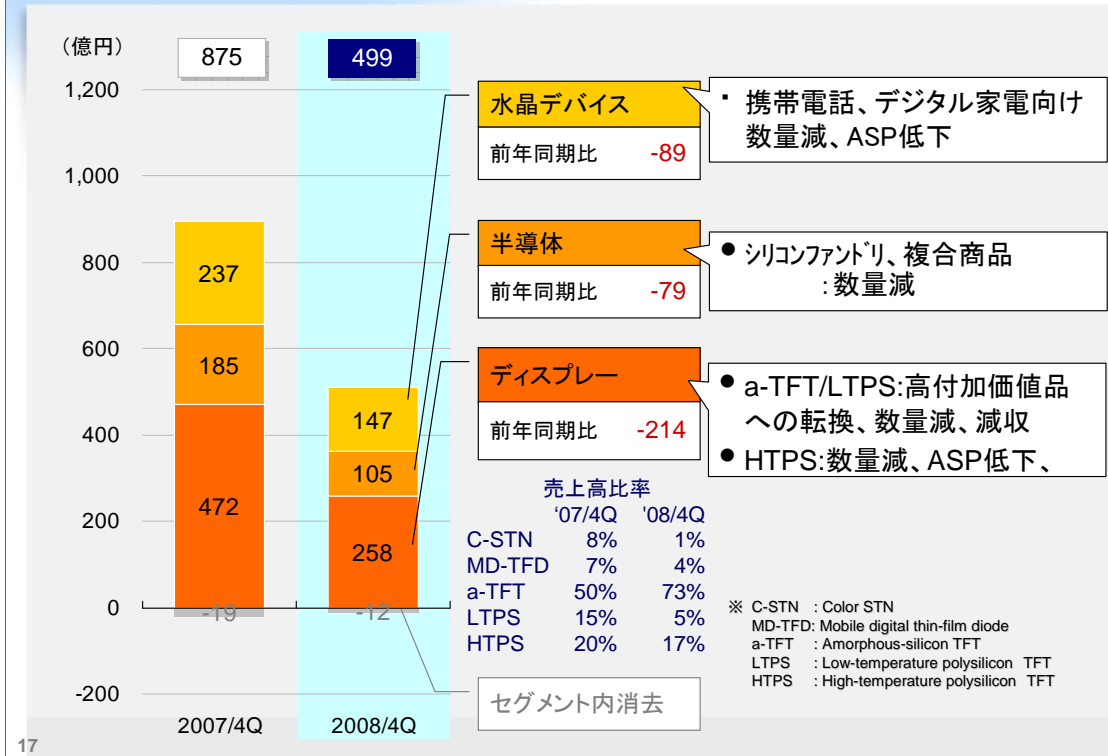
-
- 事業セグメント別の四半期売上高推移について。
- 情報関連機器は、前年同期比 539億円の減収、電子デバイスは、前年同期比 376億円の減収、精密機器は、前年同期比 63億円の減収。

四半期売上高比較▶情報関連機器セグメント



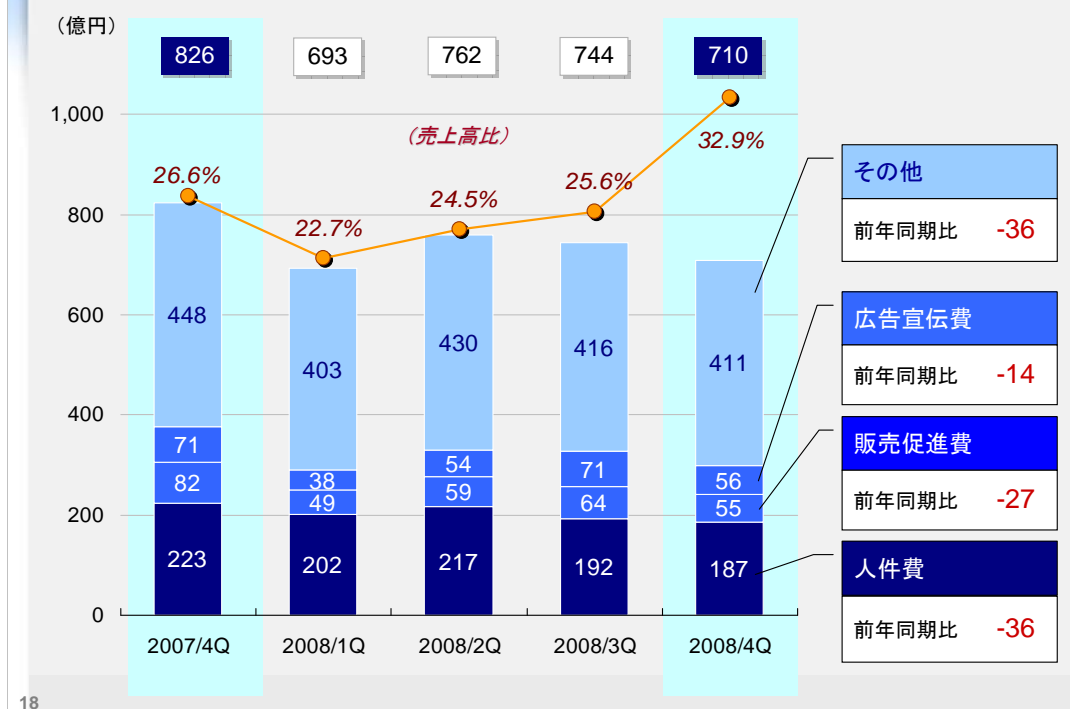
- ▶ 情報関連機器事業セグメントの第4四半期 売上高につき、事業別に前年同期と比較。
- ▶ プリンター事業は、前年同期比 441億円の減収。
- ▶ インクジェットプリンターは、本体、消耗品の数量減少と、為替の影響により減収。
- ▶ コンシューマー向け製品は、数量減となったが、全地域において市場が縮小する中で、シェアを伸ばすなど、比較的堅調に推移。
- ▶ ビジネス向け製品は、景気後退による企業の投資意欲の減退の影響を受けた。
- ▶ ページプリンタは、国内での、買い替え訴求キャンペーンなどに取り組み、効果をあげたが、景気悪化により本体、消耗品ともに減収。
- ▶ ビジネスシステムは、中国においては SIDMが堅調だったが、欧米の流通業界における投資抑制の影響によるPOS関連製品の数量減により減収。
- ▶ 映像機器は、第3四半期まで前年同期に対し、数量の伸びを維持したが、第4四半期に入り、ビジネス向け、ホーム向けの数量が減少、モデルミックスによるASPの低下、為替影響により減収。
- ▶ なお、前回(3/11)予想との比較では、インクジェットプリンターは、景気の一部の後退による欧米を中心としたユーザーの投資意欲減退にともないビジネス向け製品を中心に数量が下回ったこと、消耗品の一部流通における在庫調整により未達。ビジネスシステムは、POS関連製品が欧米を中心とした投資抑制の影響を受け、映像機器は、ビジネス向けプロジェクターを中心に数量が下回ったことにより未達。

四半期売上高比較▶電子デバイスセグメント

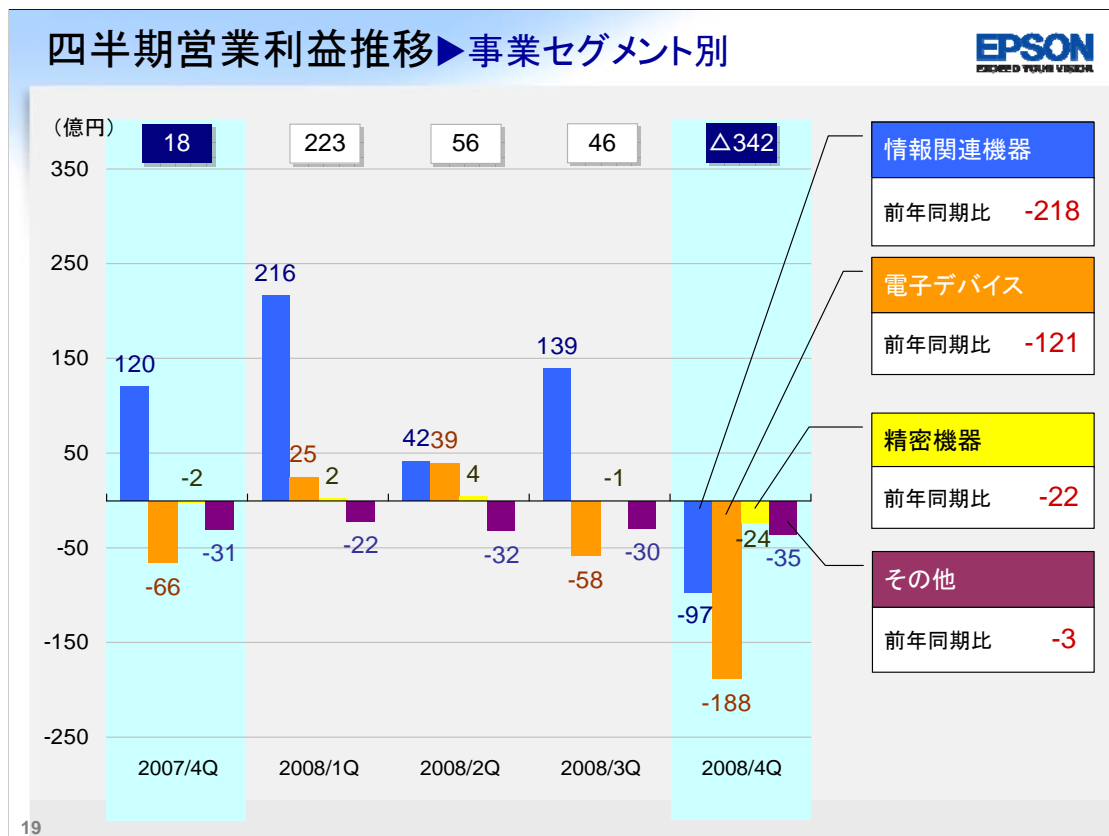


- ▶ 電子デバイス事業セグメントの前年同期比較について。
- ▶ ディ스플레이事業は、前年同期比 214億円の減収。
- ▶ モバイル用の中・小型液晶ディスプレイは、アモルファスTFT、LTPSにおいて、継続して取り組んできた価格維持などの施策効果があったが、携帯電話向け、デジタルカメラ向けを中心に数量が減少したことにより減収。
- ▶ プロジェクター向けのHTPSは、数量の減少とASPの低下により、減収。
- ▶ 水晶デバイスは、今後市場拡大が見込まれ成長領域として位置づけているジャイロセンサーにおいて数量は増加したが、その他領域においては、携帯電話やデジタル家電などの完成品市場の低迷の影響により数量減となり、減収。
- ▶ 半導体は、景気後退による需要が減少する中、シリコンファクトリーや複合商品が数量減となり減収。
- ▶ なお、前回(3/11)予想との比較では、事業毎にわずかな差はあったが、売上高はほぼ想定どおり。

四半期販売費及び一般管理費推移



- 販売費及び一般管理費の四半期推移について。
- 前年同期と比較して、115億円の減少。
- 効率的な費用の執行に努め、前年同期に比べ削減したが、売上高の急激な減少により、販管比率は、前年同期に比べ高くなった。



■ 事業セグメント別の営業利益推移について。

➤ 情報関連機器は、前年同期比 218億円の減益の 97億円の営業赤字。

➤ おもに、プリンター、プロジェクターの ビジネス向けを中心とした本体と、インクジェットプリンターの消耗品が 減収となったことにより、減益。

➤ 電子デバイスの、前年同期比 121億円の損益悪化。

➤ プロジェクター向けのHTPSは減収となったが、コストダウン、固定費削減により、前年に比べ改善。

➤ モバイル用の中・小型液晶ディスプレイ、および 半導体、水晶デバイスの各事業は、急激な数量減による減収に加え、稼働率の急速な低下によるコスト増により、前年に比べ損失は 拡大。

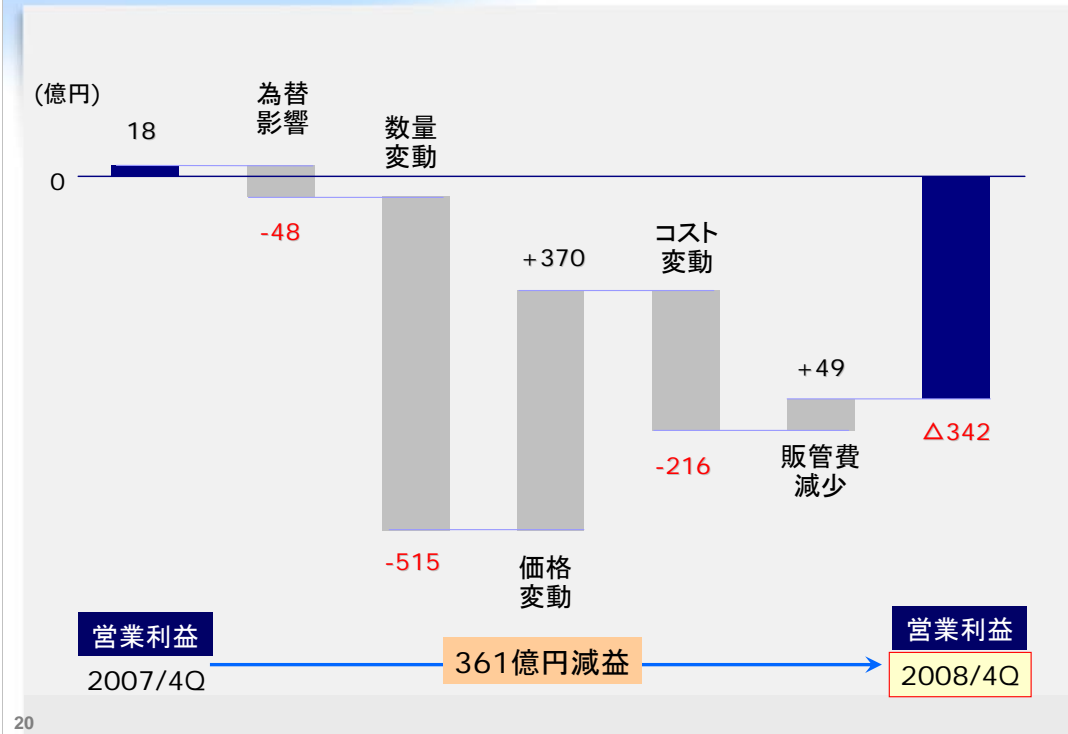
➤ なお、前回(3/11)予想との比較では、

情報関連機器は、各事業においてビジネス向け製品の本体と、

インクジェットプリンターの消耗品の売上が予想を下回ったことにより利益は未達。

電子デバイスは、売上高はほぼ想定どおりだったが、固定費削減に継続して取り組んできた成果などもあり前回予想を上回った。

営業利益増減要因分析



- 営業利益の前年同期比での減益額 361億円の要因を分解。
- 2007年度 第4四半期の営業利益 18億円に対し、価格変動や 販管費減少の増益要因があったが、数量変動やコスト変動、為替影響による減益要因により、当四半期営業利益は 342億円の損失となった。

1) 2008年度 決算

2) 2009年度 業績予想

21



➤ 2009年度の業績予想について。

2009年度業績予想▶前期比



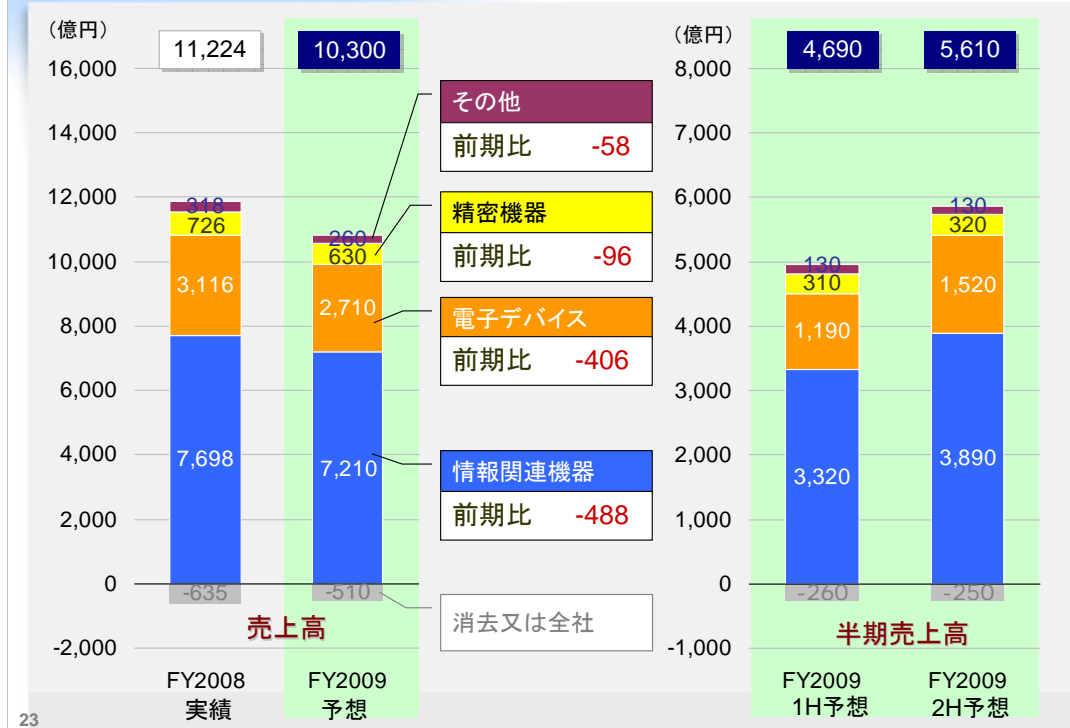
(億円)	2008年度		2009年度		増減	
	実績	売上高比	予想	売上高比	増減額	増減率
売上高	11,224	-	10,300	-	-924	-8.2%
営業利益	△15	-0.1%	30	0.3%	+45	-
経常利益	53	0.5%	0	0.0%	-53	-
税引前利益	△895	-8.0%	△20	-0.2%	+875	-
当期純利益	△1,113	-9.9%	△60	-0.6%	+1,053	-
EPS	△566.92 円		△30.56 円			
換算 レート	USD	100.53円	90.00円			
	EUR	143.48円	115.00円			

22

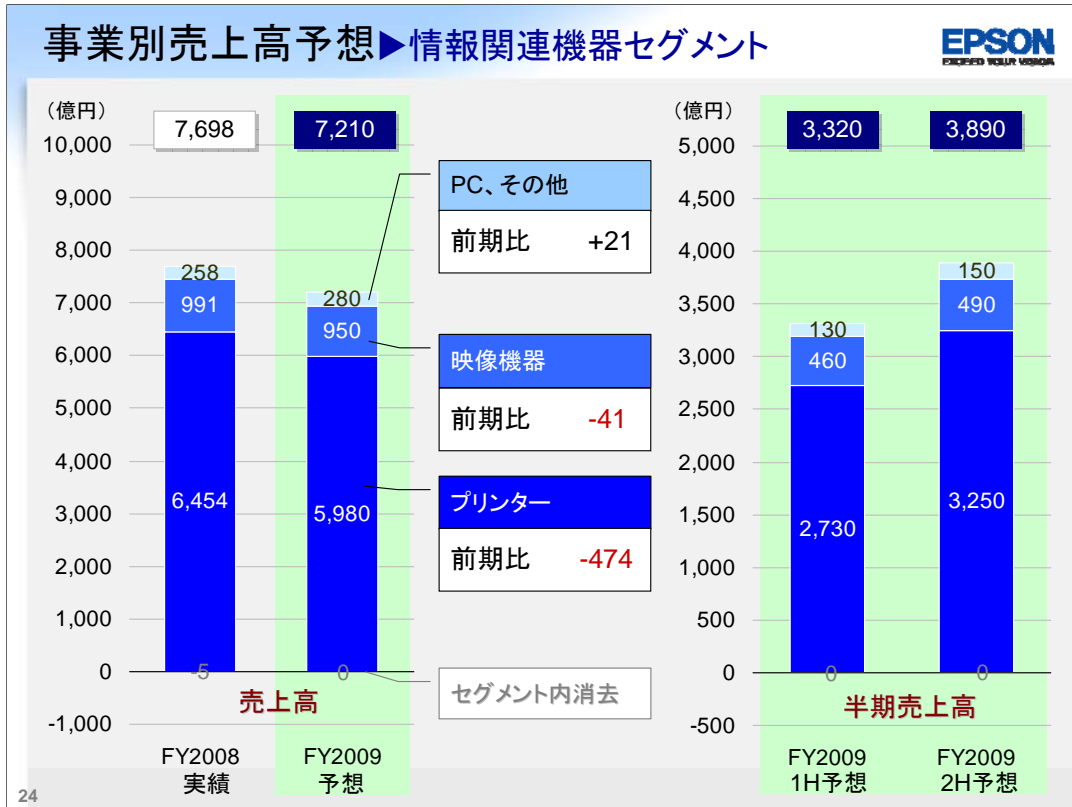


- 2009年度の為替の前提は、USD 90円、EUR 115円。
この為替による 前年度に対するマイナスの影響金額は、
売上高で 約 1,000億円、営業利益で 約 330億円 を見込む。
- 2009年度は、2008年度末に実施した 減損による影響と
全社をあげた徹底した固定費削減への取り組みの効果を見込み、
売上高は、前期比 924億円減収の 1兆 300億円、
営業利益は、45億円増益の 30億円、
経常利益は、ブレイクイーブン、
当期純利益は、60億円の損失を予想。

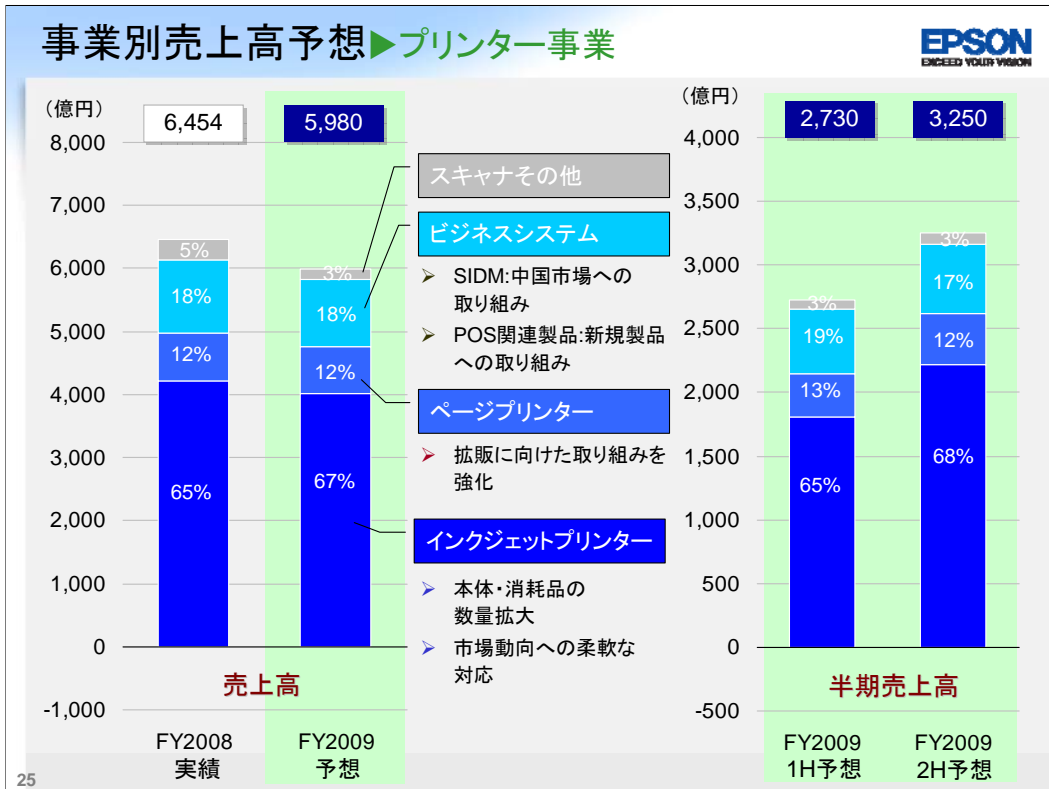
2009年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



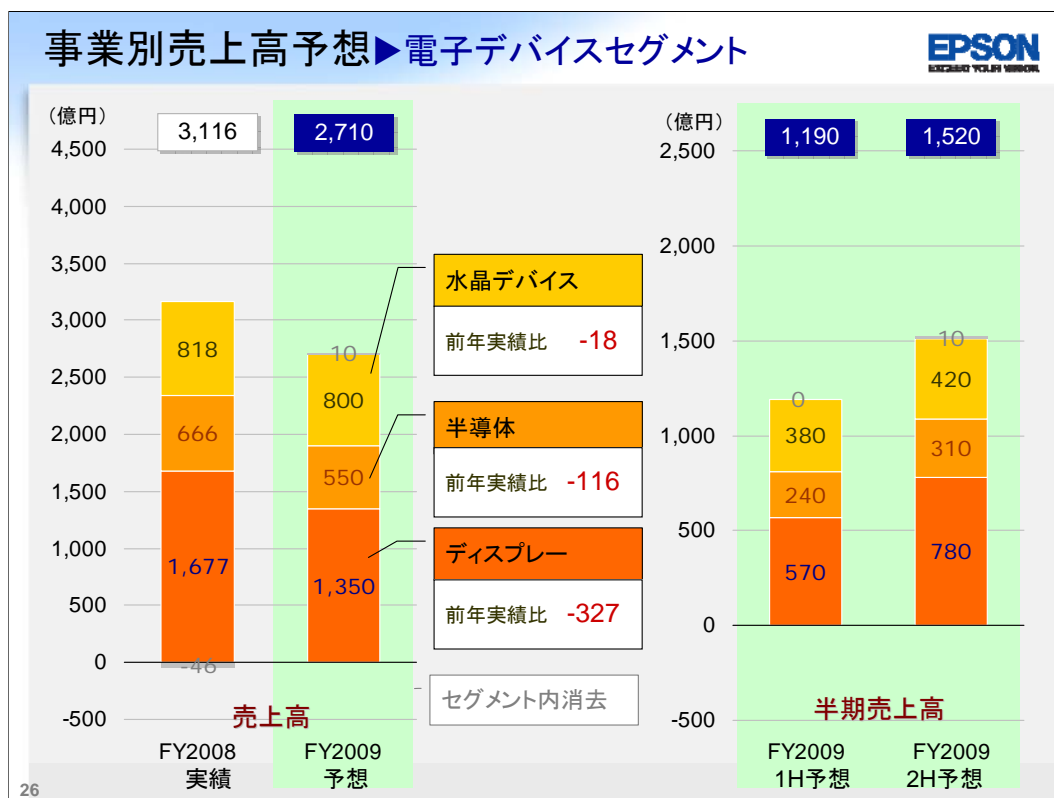
- 事業セグメント別の売上高予想と、上期・下期別の内訳について。
- 情報関連機器は、前期比 488億円の 減収、電子デバイスは、前期比 406億円の 減収 を予想。



- 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上高の内訳について。
- プリンターは、前期比 474億円減収の 5,980億円、映像機器は、前期比 41億円減収の 950億円 を予想。
- プリンター事業の内訳は、スライド25参照。
- 映像機器事業は、2009年度は、景気の後退もあり、プロジェクター市場の急速な回復は望めない。そうした中、プロジェクターのリーディングカンパニーとして、魅力のある、競争力の高い製品を引き続き投入し、現在のトップシェアの地位を維持するとともに、高輝度エリアも、強化・拡大していく。

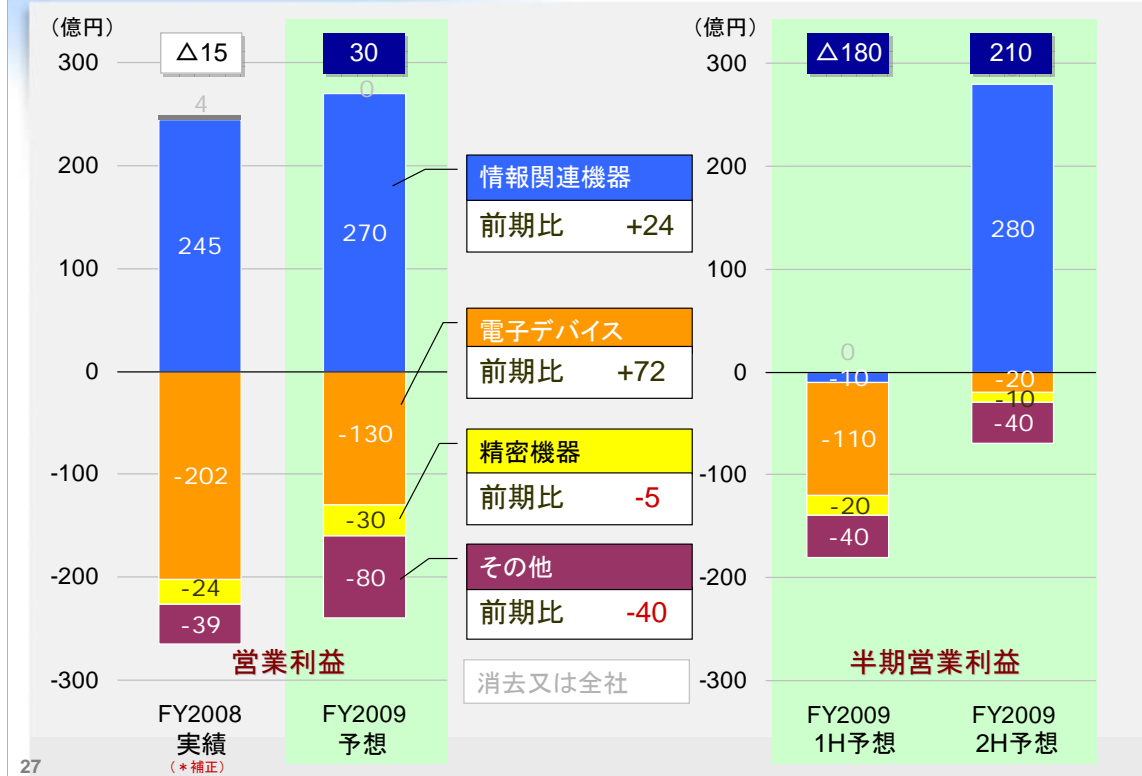


- プリンター事業の製品別ブレイクダウンについて。
- インクジェットプリンターは、景気の回復の遅れから、市場は前年に比べ 縮小が見込まれる。
- 当社は、2008年度に発売し 好評だったモデルを 更にブラッシュアップした、競争力のある製品を投入し、本体 および消耗品の数量増を目指す。円高による為替の影響や、ミックスによる ASPの低下で、減収を予想。
- ページプリンターは、引き続き、拡販への取り組みを強化し、製品展開を図るが、減収を予想。
- ビジネスシステムは、企業投資の回復の遅れから、引き続き厳しい環境が見込まれる。SIDMは、中国市場向け販売などにより 前年並みの数量を、POS関連製品は、新規商品のビジネスなどに 取り組むが、円高による為替の影響もあり、減収を予想。



- ▶ 電子デバイス事業セグメントの 事業部門別 売上高の内訳について。
- ▶ ディスプレーは 327億円の減収を予想。
- ▶ 中・小型液晶ディスプレイ事業は、携帯電話市場、デジタル機器を中心に、景気後退の影響により、数量は減少する見通し。引き続き、超広視野角・高速応答の フォトファイン ビスタリッチ技術をコアに、商品ポートフォリオの転換を進める。
- ▶ プロジェクター向けのHTPSは、市場が低調なことから、数量の減少を見込む。高輝度、高解像度の優位性を訴求し、新しい用途を提案し、より新たな、高付加価値商品を提案していく。
- ▶ 半導体は、116億円の減収を予想。シリコンファクトリーや、複合商品向けの数量が減少すると見込む。中期経営計画の方針に則り、収益性の高い複合商品などを中心に強化していくと同時に、社内の他事業、完成品・水晶デバイス事業の強化のために リソースを再配置していく。
- ▶ 水晶デバイスは、景気後退の影響により携帯電話市場、デジタル機器を中心に減速傾向が続く見通しであるため、前期比 18億円の減収を予想。

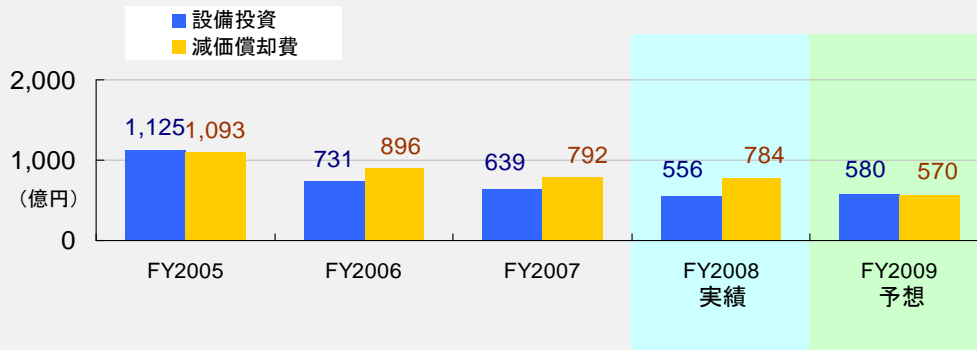
2009年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



▶ 営業利益の事業セグメント別予想と、上期・下期別の内訳について。

- ▶ 情報関連機器は、前期比 24億円の増益を予想。
- ▶ インクジェットプリンターは、為替影響もあり、本体のASPが低下するが、プラットフォームや部品の共通化によるコストダウン、徹底した固定費削減による採算改善へ取り組み、事業の効率化により、前年に比べ 増益を予想。
- ▶ ビジネスシステム、ページプリンター、映像機器は、減収による 減益を予想。
- ▶ 電子デバイスは、減損による影響もあり、前期比 72億円の改善を予想。
- ▶ 中・小型液晶ディスプレイは、商品ポートフォリオの転換を進めると同時に、コストの削減、効率化に取り組む。2008年度に比べ、損失は縮小する見込み。
- ▶ HTPSは、コストダウン等の費用削減や 高付加価値品への取り組みを行うが、減収による減益を見込む。
- ▶ 半導体、および 水晶デバイスは、固定費削減への取り組みにより、改善する見込み。

設備投資・減価償却費予想

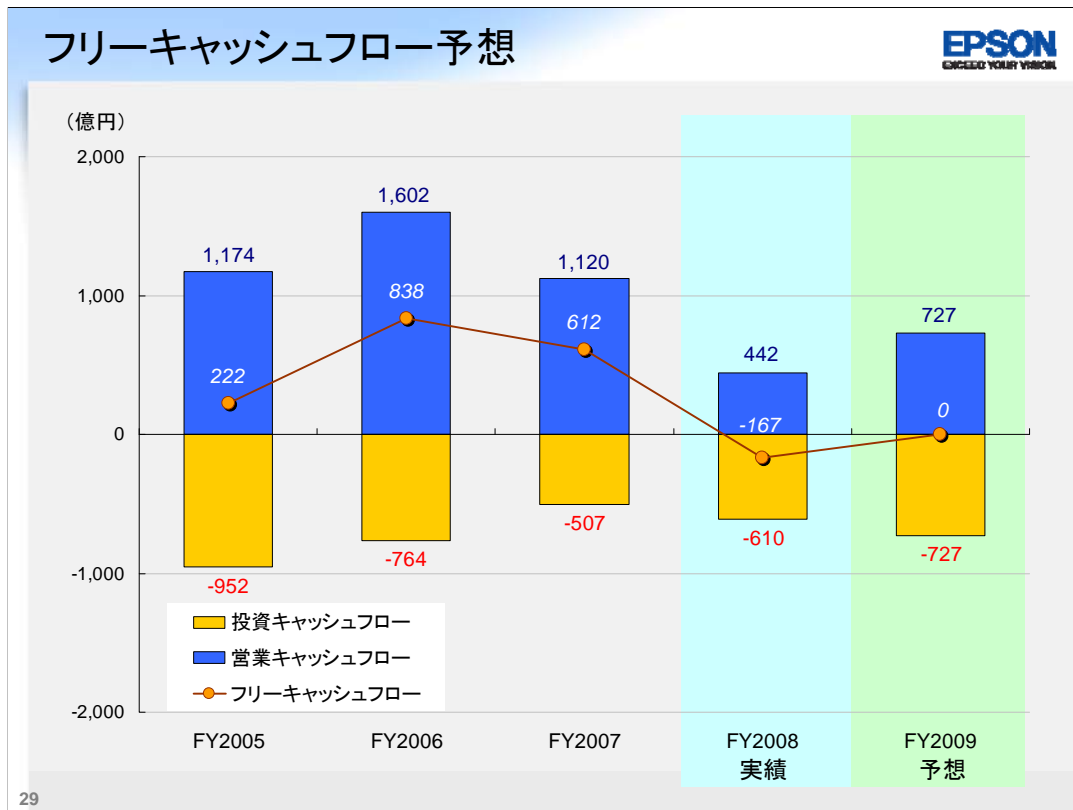


設備投資方針

- 案件を精査・厳選した上で、中期経営計画の方針にもとづき、成長・強化領域を中心に投資

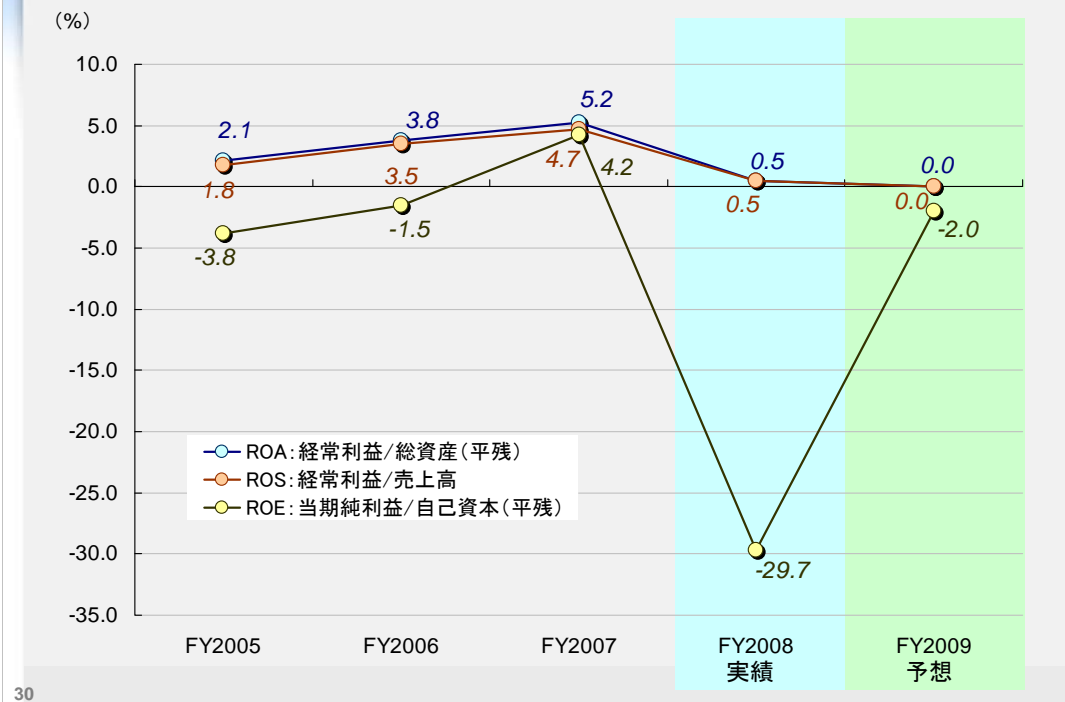
28

- - 設備投資と減価償却費の推移および予想について。
 - 2008年度は、設備投資の精査・厳選を進め、前年度に比べ削減。2009年度も、引き続き厳選し、中期経営計画の方針にもとづき、成長・強化領域を中心に 580億円の投資を計画。
 - 減価償却費は、設備投資が減少したことや、減損の影響により、2009年度は、570億円を予想。



- キャッシュフローの推移と予想について。
- 2008年度は、損失を計上したことにより、フリーキャッシュフローは -167億円。
- 2009年度は、
 投資キャッシュフローが エプソントヨコムの株式取得により増加するが、
 営業キャッシュフローの改善により
 フリーキャッシュフローは、ブレイクイーブンを見込む。

主な経営指標の推移



30



- 主な経営指標の推移と予想について。
- 2009年度の業績予想に基づく主な経営指標は、ROS および ROAは 0%、ROEは -2.0%。